

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1231
施設名	ぴっころ保育園
施設所在地	東京都世田谷区
法人名	社会福祉法人菊清会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「リトミック」 ・主体的な表現 ・拍と身体のコントロール ・楽器と音の探究
--

<テーマの設定理由>

・表現あそびに“見て参加”を選択する子がいる中で、配慮が必要な子も含めてみんなが楽しめるリトミックを実現したい。 ・リトミックを通して身体をコントロールしながら拍を表現することで、怪我の防止や身体能力の向上に繋げたい。 ・楽器あそびが好きな子どもは多い一方で、職員は演奏に苦手意識を持つ人が多く、保育の中でどう取り入れるか悩んでいたからこそ、演奏することを通して様々な音に触れて豊かな感性を育むとともに、楽しみながら楽器に触れる保育がしたい。

2. 活動スケジュール

月2回（令和7年5月～令和8年2月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

「環境設定」 ・3・4・5歳児保育室全体を使用した ・いすを大きな円形に並べて、子ども同士が見合える形で行った ・12月頃からは保育室に舞台を設置した 「準備した素材や道具」 ・ピアノ ・ラバーリング ・和太鼓 ・楽器（タンバリン・鈴・カスタネット・鍵盤ハーモニカ・グロッケン・トーンチャイム・

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①異年齢で主体的に参加するリトミック
- ②拍に合わせて身体をコントロールするリトミック
- ③楽器を使った音の探究

<活動中の子どもの姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ①年下児が年上児を見て真似る姿があった。保育者が主導しなくても、やり方がわからない子や参加をためらっている子に対し年上児が「一緒にやろう」と声をかけ、手を引いて輪の中に誘っていた。
- ②拍に合わせて身体をコントロールするリトミックをしていく中で、課題をひとつずつあげながらだんだんと難しくしていくと、簡単な時よりも笑顔が多くみられていた。できないことも含めて面白がっている様子だった。
- ③初めての楽器を保育者が導入で演奏してみると、場がしーんと静まり子どもたちは興味津々に音を聞きながら目を見張っていた。その後「やってみたい」という声が聞かれたので、子どもが音を鳴らす機会を設けることにした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ①保育者主導でなく「異年齢」を効果的に使うことや、配慮が必要な子、苦手意識のある子が楽しめるものを取り入れ、「何でうまくいったのか」を省察することで、無理なく心地よく参加できるようになっていったということ。
- ②音に合わせて両足でジャンプするなどといった身体のコントロールができるようになってくると、運動あそびやおにごっこなど戸外活動でも大きな怪我が減っていった。
- ③同じ楽器でも様々な音が出せるというような楽器の特性や合奏における役割は、保育者が教えるよりも子どもが探究したり楽しんでいく過程が大切で、保育者は意図して環境を作ることが重要だということ。また保育者に楽器に対する苦手意識があったとしても、子どもの「こうしてみたい」「やりたい」という気持ちに寄り添い、友だちやその保育者も一緒にあって探究を楽しむことが、豊かな感性を育むことに繋がるのではないか。